

答辞

厳しい寒さも和らぎ、校庭の木々にも春の息吹が感じられる今日の佳き日に私たち卒業生一六一名は伝統あるこの川之江高校を卒業します。本日の卒業式にこのように多くの方のご臨席を賜り、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

真新しい制服に身を包み、不安と期待を胸に正門をくぐった入学式の日が、つい昨日のこのようです。入学式で初めて出会った仲間たち。これからの高校生活が楽しみで、心を踊らせました。

一年生の集団宿泊研修。ウォークラリーでは道に迷い、不安でいっぱいになりました。一泊二日の短い研修でしたが、マスクを外して仲間と語らうことで、心の距離を確かに縮めた、大切な時間でした。

二年生の文化祭。どのクラスもダンボールを集めるところから準備を始めました。私たちのクラスはお化け屋敷を企画しました。ダンボールで壁を作り、驚かせる練習をして迎えた当日、怖がりながらも楽しんでくれるお客さんの姿を見て、頑張ってた良かったと思いました。仲間と作り上げたからこそ、味わえた気持ちだったと思います。

クラスマッチでは、男女の垣根を越えて応援する姿を見て、この仲間たちと過ごせる嬉しさを改めて実感しました。体育館に響き渡る仲間の声援と、勝利の喜びを分かち合う、あの光景は、今も目を閉じると鮮やかに浮かんできます。

三年生の夏休みから始まった応援合戦の練習。照りつける太陽の下、汗だくになりながら演技を完成させました。本番、グラウンドに鳴り響く太鼓の音は迫力を増し、どの団も息をのむ圧巻の演技で全員が輝いていました。

そして、この一年はそれぞれが自分の進路と本気で向き合った時間でした。模試の結果に一喜一憂した日、夜遅くまで残り面接練習に励んだ日毎日が必死で逃げ出したい日もありました。しかし、どんなに不安でも自分が決めた進路に向かって本気で努力を重ねる仲間の姿は、これまで見たどの姿よりも強く、かっこよく見えました。その姿に感化され、私たちは自分の持てる力以上に踏ん張ることができました

バトン部での経験は、私を大きく成長させてくれました。高文祭の悔しさをリベンジすべく掲げた「全国大会で賞を取る」という目標に向かって、全員が本気で努力しました。意見がぶつかることも、悔し涙を流すこともありました。何百回も投げたバトン、何度も繰り返し聞いた曲、夜遅くまで練習に励む日々の中で、なんとしてもこのチームで結果を残したいと思うようになりました。

しかし、本番一か月前、練習していた曲が使えなくなってしまったのです。私たちが半年間かけて積み重ねてきた、時間や努力が一瞬にして失われるような気持ちになりました。次々と押し寄せて来る不安に、キャプテンの私が負けてしまいそうでした。「もう無理かもしれない」と思いました。「ここまでみんなを引っ張ってきたのだから、今、立ち止まってはいけない」そう分かってはいるのに、気持ちは追い詰められていく一方でした。

そんな自分の弱さに気付かせてくれたのは、仲間たちの力強い演技です。日に日に磨かれていく演技と技には、「みんなでこの窮地を乗り越えよう」という強い思いが表れていました。

その結果、全国大会前日ではバトンを誰も落とさないノードロップを全員で初めて成功させることができ、演技が終わった瞬間、思わず涙がこぼれました。あの時、諦めないでよかった。皆で全力を出し切れたことの達成感と喜びでいっぱいになりました。

私たちは、三年間で様々な試練を乗り越えてきました。しかしそれは、自分一人の力だけではできなかったはずです。

同じ時間を過ごし、同じ景色を見てきた仲間達。私はみんなのおかげで、大切な人と過ごすことで、当たり前前の日常がかけがえのないものへと変わる、その尊さを学びました。学校行事だけでなく、何気ない朝の教室や放課後の何でもない時間でさえ、すべてが愛おしく幸せな時間でした。今日まで本当にありがとう。

生徒一人一人に対し、どんなときも真剣に向き合ってくくださった先生方は、私たちの大きな支えでした。先生方は、いつも私たちの進路について真剣に考え、選択の先まで見据えて、たくさんのアドバイスをしてくださいました。

時に厳しい言葉をかけられることもあったけれど、その言葉にはいつも変わらない優しさと愛情が詰まっていたと分かっていました。本当にありがとうございました。

そして十八年間、私たちの成長を一番近くで見守ってくれた家族へ、心からの感謝を贈ります。私は川之江高校で、一生の友達ができ恩師と呼べる先生に出会い、たくさんの経験を積むことができました。まだ大人になりきれない私たちは、つい甘えてしまい、素直になれず、きつい態度を取ってしまうこともありました。それでも、変わることもない深い愛情で支えてくれた存在は、私にとって何よりも大きいものであり、誇りです。十八年間本当にありがとう

在校生の皆さん。皆さんの存在に何度も助けられました。これから様々なことに悩む中で、周りとは比べて不安になることもあるでしょう。でも、その時間は決して無駄ではありません。向き合った時間がきっと自分らしい選択につながっていきます。今こうして一緒に学校生活を送っている仲間との貴重な時間を大切にしてください。これからの川之江高校をつくっていくのは皆さんです。応援しています。

私たち卒業生は、期待と不安を抱えながら、新たな世界へ羽ばたこうとしています。これからは、すべて自分で責任を持って考え、選び、行動しなければなりません。この先も迷い、立ち止まることもあると思うけれど、最後は自分を信じ、この足で進んでいきます。

最後になりますが、川之江高校の更なる発展を祈念し、今まで私たちを支えてくださった全ての方々に深く感謝申し上げます、答辞とさせていただきます。

令和八年 三月一日

卒業生代表 信藤 まひろ